

10 実習プログラム例

○プログラムの説明	
<p>実習指導は、学生に対するスーパージョンである。そのため、実習指導者はスーパージョン関係(実習生と実習指導者の協働関係)にも留意する必要がある。そこで、実習プログラムの留意点については、次の3つのカテゴリに分類して提示を行っている。</p> <p>これら3つのカテゴリの主旨を意識し、それぞれに応じた実習プログラムの組み立てや評価、時間と場所の確保などを行うように想定している。</p> <p>赤・・・実習生が主体的に取り組むことが期待されている事柄。実習生自身に「実習生にさせる」。(例)体験させる 認識・理解させる (実習生が)考える 述べる</p> <p>緑・・・実習生と実習指導者がともに行うことが期待されている事柄。お互いが「実習生と指導者がともに行う」。(例)実習ノートを用い一緒に考える 共有する</p> <p>青・・・実習指導者が積極的に行うよう期待される事柄。実習指導者の方より「指導者がおこなう」。</p>	

※基本的な視点、要点

- ①実習生が失敗を恐れて萎縮しないように実習指導者が配慮(声がけ)するとともに、リカバリーする。・実習指導者としての指導・教育力を発揮するとともに、支持的に実習生に向き合う。
- ②原則として事前のオリエンテーションを実施し、実習計画の内容を確認した上で、実習計画や事前学習への指導を行う。事前に対応(オリエンテーション)できない場合には、養成機関と連携をして実習生の実習計画を確認する共に、内容の修正や事前学習を追加する等の必要があれば、実習指導教員を通じて指導・助言を要請する。
- ③実習時に必要となる基礎知識を踏まえて事前学習に必要な内容を定め、養成機関ならびに実習生に対して課題として具体的に提示する。活用を奨励する図書などがあれば紹介・推薦する。
- ④実習計画の立案や実施にあたっては、実習生の状況(準備の充足度や学習の達成度、学習能力など)に合わせて、柔軟に対応する。
- ⑤実習生について個別に配慮する事案・事情があるかどうかを必ず確認する。(身近な親族等が利用者や職員であること、心身に関わる配慮を要する場合等)
- ⑥提出物は原則として提出された当日にコメントを付して返却する。・コメントは実習生の想いを汲み取り、実習経過の時期や達成状況を考慮して記す。
- ⑦実習指導者としてのフィードバックを通じて、実習生の学びを支援する共に、実習ノートを通過した指導の連続性を考えて、当日(翌日)の課題を設定(実習生に提示)する。
- ⑧前日の実習終了時もしくは当日の実習開始時には、実習生ともに当日の実習目標・実習課題を確認し、相互に共有する。
- ⑨実習中において活用できる資料、MSWとして普段の実務に活用している資料を紹介し、共にその内容や活用方法を確認する。(実習生は自己学習を行い、質問などを通して学びを深める。実習指導者は、実習生に対する説明の機会を設ける。)
- ⑩実習指導者として実務に応じた様々な場面を実習生に開示する(見せる)と共に、何のための行動・言動であるのかの事前説明もしくは事後の解説を行う。(同行させるだけで済ませない。)
- ⑪**実習生には、様々な場面を通じて積極的に来院者や職員への挨拶をするように促す。**
- ⑫実習生が来院者と触れ合う機会を得られるよう、具体的な場面の提供を工夫する。
- ⑬**リアルタイムでの面接場면을体験させる共に、ロールプレイなどを通じた訓練の機会から提供する。**
- ⑭面接場面の体験やロールプレイ、面接の実践までの一連の実習課題、実習内容を、実習スケジュールの各過程において段階的に組み入れる。
- ⑮実習期間中の学びのステップを踏まえて、実習終了時までには面接の実践(体験)に到達できるように日々の課題と達成状況(評価)を共有する。
- ⑯**患者会や院内ボランティア等との関わりの機会も積極的に取り入れる。**

	ねらい	プログラム	留意点
事前学習	<p>保健医療機関にMSW専門職がいる意味を考える</p> <p>(1)事前学習</p>	<p>・実習のマナー・心構えの確認</p> <p>・MSW、医療福祉の制度の文献学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関に福祉の専門職が入るのはなぜかを自らの言葉で考えさせる。 ・事前学習が必要と思われる社会保障、社会保険、福祉制度、福祉制度、疾患等について提示する。その際、養成機関における学習済の内容を確認し、不足している項目に関しては具体的な教材等を提示する。 ・実習先がどのような機関であるか、病院のパンフレット、ホームページ等により概要を把握させる。 ・実習機関のある地域の特性(人口、高齢化率、交通事故率、交通事業、地理的条件等)を行政の刊行物、ホームページより事前に把握させる。 ・実習生と向かいあえる時間を創り、行動や言動を見せた後は実習生に説明し伝える。できれば質問(感想)を受ける。考えさせる(メモでも) ・実習開始の概ね1か月前に事前訪問を設定することが望ましい。事前訪問は学生と指導者との信頼関係づくりにもなり重要である。
事前学習	(2)事前訪問	<p>・実習機関における諸注意(職員に準ずる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような知識をもって実習に挑んでほしいかを伝え、事前学習の内容を提示、提案する。推薦図書を挙げ、通読等を勧める。 ・実習の目的、課題、実習計画について確認し共有する。必要があれば現実的な実習計画に修正する。 ・養成機関でのMSW関連の講義の履修内容を確認し、必要に応じて追加の学習内容等を提示する。 ・実習中、学生は実習機関の職員に準ずる扱いとなるため、就業規則、服務規程(感染対策、個人情報保護の漏洩、医療安全等)について遵守するよう十分に説明する。 ・実習中に必要な携帯品、白衣・ユニフォームの貸し出しの有無、身だしなみ、挨拶、交通手段を確認する。 ・実習機関は医療機関であり、クワイエントの治療・療養の場であることを説明する。 ・実習生について個別に配慮するべき事項があるか否か確認する。 ・実習開始後に必要な詳細(ジェネログラム、エコマップ、生活歴、アセスメントなど)と各項目の必を理解させる ・実習生を受け入れることを院内に事前に知らせる。
事前学習	(3)実習課題の設定	<p>・実習の目的・実習計画の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような知識をもって実習に挑んでほしいかを伝え、事前学習の内容を提示、提案する。推薦図書を挙げ、通読等を勧める。 ・実習の目的、課題、実習計画について確認し共有する。必要があれば現実的な実習計画に修正する。 ・養成機関でのMSW関連の講義の履修内容を確認し、必要に応じて追加の学習内容等を提示する。 ・実習中、学生は実習機関の職員に準ずる扱いとなるため、就業規則、服務規程(感染対策、個人情報保護の漏洩、医療安全等)について遵守するよう十分に説明する。 ・実習中に必要な携帯品、白衣・ユニフォームの貸し出しの有無、身だしなみ、挨拶、交通手段を確認する。 ・実習機関は医療機関であり、クワイエントの治療・療養の場であることを説明する。 ・実習生について個別に配慮するべき事項があるか否か確認する。 ・実習開始後に必要な詳細(ジェネログラム、エコマップ、生活歴、アセスメントなど)と各項目の必を理解させる ・実習生を受け入れることを院内に事前に知らせる。
1週目	面接経験に至る第一段階	<p>・挨拶・自己紹介等意欲と不安について話し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習初日は次の事柄を確認する。 ・実習プログラムの中で、課題を再確認する。状況に応じ、課題の再設定を共に行う。 ・実習時の具体的なマナーについて、一緒に確認する。(他職員への挨拶、身だしなみ、言葉使いなどに留意する) ・病院内の見学と関係部署に挨拶を行いながら、診療の流れや、どの部署がどのような役割を担うのかを説明する。
6日間 45時間	<p>医療機関でMSWは何をしているか、役割は何かを理解する</p> <p>(1)実習内容の確認</p> <p>(2)実習機関の理解</p>	<p>・事前学習の確認</p> <p>・実習プログラムの確認と院内の見学</p> <p>・実習機関の理解(組織、沿革、地域理解、院内見学、レイアウト、院内の診療の流れ、院内会議、部門の位置づけ、)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・院内の病棟機能を理解する。 ・実習先での業務が、他施設ではMSW以外の職種が行うことも伝え、上で、実習先医療機関でMSWが担っていることの意義を説明する。 ・実習医療機関が地域のなかでどのような役割を担い、期待されているのかを説明する。 ・他施設への見学の機会を設けたり、他施設からの訪問者から直接説明を聞く機会などを設け、どのように他施設と病棟が連携を

		<p>(3)医療機関についての理解</p> <p>(4)実習先のMSW(部門)の理解、他職種理解</p> <p>(4)ー2 MSWは何をしているのか 実習先でのMSWの役割</p> <p>(5)他職種への理解 (5)ー1 役割と専門性 (5)ー2 連携とチーム (5)ー3 MSWの位置づけと関連性 (実践環境・フィールドの背景的理解)</p> <p>(6)患者理解</p> <p>(7)記録について、個人情報の保護</p> <p>(8)地域を理解する</p> <p>面接経験に至る第二段階</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病院理解(役割、法、病床の種類→施設基準、個人情報の取り扱い、診療) ・公示内容の理解 ・感染対策 ・入退院支援業務の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬上のMSWの位置づけ ・ペットコントロール機能業務 ・病院の職種理解(他職種) <ul style="list-style-type: none"> ・他職種、他部門(見学・体験・講義) <ul style="list-style-type: none"> ・患者の理解(どのような患者が対象であるのか) ・疾病の理解(患者特性) <ul style="list-style-type: none"> ・カルテの見方(情報共有、閲覧方法) ・記録の種類と書き方(SOAP、サマリ、連絡票) ・記録の開示(読む、見る)による実践理解 ・記録の管理、活用方法の説明と実践 <ul style="list-style-type: none"> ・制度理解 	<p>行っているかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院機能と診療報酬についての関連性が理解できるよう説明する。 ・一般的な医療機関の概要を理解し、さらに実習先の特徴(患者特性や対象疾患、地域性など)を理解する。 ・他病院の役割がわかり、実習先病院との役割の違いが理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・組織図を確認し、MSWがどのように位置づけられているかを把握する。 ・組織の中でのMSWの立場や位置づけを他部署や多職種との連携の点から考える。 ・実習機関におけるMSWの業務内容を診療報酬や制度の位置づけの視点で考える。 ・他職種がどんな専門性を持ち、どのように病院内で機能しているかを理解する。MSWが他職種とどのように情報共有を行い、連携しているのか、MSWが病院内でどのようにして、コーディネーター機能を発揮しているのが理解できる。 ・医療機関において、社会福祉士に関連する診療報酬を調べる。例えば入退院支援加算、入院時支援加算、認知症ケア加算、施設基準等 ・MSWがどのような役割を担っているのかを、他職種から聞いたり感じたりすることができる。 ・病院、病棟内に行われているカンファレンスなどの機会にも同席し、MSWの役割について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・MSWが他職種の専門性や役割をどのように捉えているのかを知る。また、院内や院外での連携手段や仕組みを知り、連携をすることの意味を考えることができる。 ・他職種の専門性を理解するため、他部署での見学実習の機会を持たせる。 ・他職種の役割について学び、MSWの役割についてを考える。例えば、入退院支援に複数の職種が関わる時に、MSWの視点、他職種の視点の違いがあるかを考える。 ・外来窓口となる部署、例えば医事課での実習の機会を持ち、来院患者の特徴などを学ぶ。 ・疾病が生活へどのような支障や障がい及ぼすかを考えさせる。 ・カルテの閲覧方法の説明時に個人情報取り扱い方法についても触れる。SNSへの書き込みや、家族、友人との雑談なども配慮できるよう伝える。 ・個人情報保護法との関連やカルテ開示があった場合の対応について学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援記録・会議記録・地域ケア会議、業務統計等全般にわたってMSWが記載する記録の内容、記載方法を見る。 ・MSWが残す記録にどんな内容や記入方法で残されているかを、見る。誰がどのように閲覧するのかを決められた記録後の保存方法や期間を理解する。
<p>2週目</p> <p>6日間 45時間</p> <p>職種実習</p>		<p>SWは何をしなくてはいけない役割か、本来SWが担わなくてはならない役割(MSWへの理解)</p> <p>(1)MSWが担うべき役割を理解する</p> <p>(2)地域におけるSWの役割を理解す(MSWへの理解)</p> <p>(3)クライアント理解(患者・家族への理解)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理綱領 ・MSW業務指針 ・MSWとしての自己覚知 ・倫理の理解(シレンマの考察、葛藤) ・組織内での位置づけ <ul style="list-style-type: none"> ・院外での多職種理解 ・地域医療連携(病院・介護保険・障害者施設) ・業務統計(日月年報) <ul style="list-style-type: none"> ・対象者(クライアント)の理解 ・専門職としての理解 ・権利擁護 ・苦情・患者の声(患者サポート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務指針や倫理綱領を照らしながら、MSWの価値を理解させる。 ・MSWの専門性を意識して、業務一つ一つの意味を説明する。 ・他部門からの依頼内容を見せ、何を求められているかを考えさせる。 ・カルテの記録を読み、MSWの実践内容を把握させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーキングや連携に関する院外活動に同行させる。 ・患者や家族のニーズや統計から読み取れる満足度や相談を把握し、実習機関の特徴を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・患者・家族の態度や情報から読みとれる気持ち、想いを言葉にしてみる。説明させる。 ・患者サポート、苦情や患者の声に対応した記録を閲覧させる。 ・患者の声等に対応した記録を読み、医療機関に対する苦情対応についてソーシャルワーカーの視点から考えさせる。 ・虐待のフォローチャートやマニュアルをみせ、病院がどのような役割を担っているか理解させる。

		<p>面接経験に至る第三段階</p>	<ul style="list-style-type: none"> 虐待 記録 <p>ロールプレイを行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実習生がソーシャルワーカーとしての視点で考えることを大切にし、ソーシャルワーカーの姿勢を伝えていく。 MSWIは作成記録で「何を記録に残し、何を省いているか」その取捨選択を考えさせる。 面接の同席やロールプレイ等を通して、専門職としての姿勢や態度を体感できるような機会や場所を設ける。(例えば、医療相談室や医療相談員の説明を行ってみる。訴えに寄り添い傾聴する姿勢) 電話でのやり取り(声のトーン、話し方)から面接との話し方の相違を考えさせる。 院内カンファレンスに同席させ、出席者の発言を記録させる。 MSWIにどのような知識、技術が必要かを考える。 個別の支援事例を通じて次の事項について考えてさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 面接でMSWIはどのような態度・姿勢であったか。面接でどのような技術、技法が活用されていたか クライアントはMSWIに何を期待しているか クライアントのニーズに対応できる社会資源として何があるか調べてみる MSWIがどのように支援していたか、その理由は何かであるか 支援の流れはどのようなようであったか 過去のMSW記録を読ませ、ソーシャルワーク実践課程について理解を深めさせる。 社会資源の把握(方法)、内容の理解、コーディネート(の視点)、プランニング(マッチング)の視点、説明や提案を体験させる 様々な場面での面接に至るまでの段取りを具体的に示す。 個別の支援事例についてロールプレイや記録作成をさせて次の事柄を体験させる。 <ul style="list-style-type: none"> 面接場面でクライアントはどのような気持ちでいたのか(いるか) MSWの応答がクライアントにどのように伝わっているか 面談中のクライアントの様子で気にとめておくことは何であるか 面接のはじめと終わりでクライアントはどのように変化していたか
<p>3週目 6日間 45時間</p>	<p>多様な援助プロセスに沿ったMSWの業務を理解する (1) 援助のプロセスの理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ニーズの把握 インテーク 情報の整理 アセスメント 支援方法(なぜアプローチを学ぶ必要があるのかを考える) 支援計画(プランニング) モニタリング ケースカンファレンス 代弁 人間理解(身体的、心理的、社会的理解、生活歴) 個別の支援事例を通しての取り組み 面接の観察 面接 スーパービジョン カンファレンス 	<ul style="list-style-type: none"> チーム医療、他職種の評価を理解し、援助に組み込む能力を学ぶ。 他職種がチームを組み、チームビルディングを行う方法を理解する。(各専門職の価値、倫理綱領の理解) 地域ケア会議や、地域に行われている多職種連携会議や研修会の目的や、参加の意義を理解させる。 患者会、家族会とかかわりについて考えさせる ボランティアとかかわりについて考えさせる 機会があれば地域ケア会議や研修会等と同行し、ソーシャルアクションに繋がる地域の福祉課題について確認する。 就労支援、両立支援について説明する 研究の必要性について説明する MSW協会や他団体主催の研修会に参加し、専門職としての自己研鑽の必要性を学ぶ。 職能団体が開催する学生向けの研修会を紹介する 職能団体の必要性や役割について説明する ロールプレイ等を重ねて、これまでのかかわりの中で一定の条件が整った場合は面接を行うか検討する。 実習生が面接に望む心構えができているか確認し、見極める。 到達度により、面接場面を検討する(一場面だけ面接を行う) 実習最終日に、実習で得られた成果、学びとなった事柄などを話し合う。(実習生、実習指導者、実習関係者を含む) 実習最終日に、今後に取り組んでいく必要がある内容、事柄を話し合う。(実習生、実習指導者による個別対応) 実習総括レポート等の提出時に合わせて時間を作り、評価の共有を含む振り返りを行う。(面接) 実習生による自己評価、実習指導者による他者評価および振り返りの話し合い(評価の共有)を基に話し合う。 実習生として「忙しい現場で、どのようにMSWが患者に寄り添い支援しているのか」を考察し、その姿勢についての自らの意見・考えを言葉にし、発表する。(レポート課題、発表などによる) 病院・医療機関での実習を通じた具体的な成果、達成度(感)を共有する。 (患者に寄り添う姿勢の実験を実習生が言葉にしてみる。言語化の訓練・体験として。) (実習指導者が感じているMSWの醍醐味、具体的なやりがいや達成感、体験などを言語化して伝える。) (実習生による自己評価、実習指導者による他者評価を基に今後の課題を話し合う。) 実習報告書をチャエツプし、可能な範囲でフィードバックする。(実習報告会への出席を含む) 	
<p>4週目 6日間 45時間</p>	<p>SW実習</p> <p>(2) 組織とのかかわり方の理解 (3) 地域とのかかわり方の理解 (4) その他のMSW業務の理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源の開拓 患者会 家族会 ボランティア関係・育成 地域の福祉課題 ネットワーキング(地域活動、地域ケア会議への参加) 就労支援、治療との両立支援 研究 職能団体の理解 傾聴面接を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 就労支援、両立支援について説明する 研究の必要性について説明する MSW協会や他団体主催の研修会に参加し、専門職としての自己研鑽の必要性を学ぶ。 職能団体が開催する学生向けの研修会を紹介する 職能団体の必要性や役割について説明する ロールプレイ等を重ねて、これまでのかかわりの中で一定の条件が整った場合は面接を行うか検討する。 実習生が面接に望む心構えができているか確認し、見極める。 到達度により、面接場面を検討する(一場面だけ面接を行う) 実習最終日に、実習で得られた成果、学びとなった事柄などを話し合う。(実習生、実習指導者、実習関係者を含む) 実習最終日に、今後に取り組んでいく必要がある内容、事柄を話し合う。(実習生、実習指導者による個別対応) 実習総括レポート等の提出時に合わせて時間を作り、評価の共有を含む振り返りを行う。(面接) 実習生による自己評価、実習指導者による他者評価および振り返りの話し合い(評価の共有)を基に話し合う。 実習生として「忙しい現場で、どのようにMSWが患者に寄り添い支援しているのか」を考察し、その姿勢についての自らの意見・考えを言葉にし、発表する。(レポート課題、発表などによる) 病院・医療機関での実習を通じた具体的な成果、達成度(感)を共有する。 (患者に寄り添う姿勢の実験を実習生が言葉にしてみる。言語化の訓練・体験として。) (実習指導者が感じているMSWの醍醐味、具体的なやりがいや達成感、体験などを言語化して伝える。) (実習生による自己評価、実習指導者による他者評価を基に今後の課題を話し合う。) 実習報告書をチャエツプし、可能な範囲でフィードバックする。(実習報告会への出席を含む) 	
<p>事後学習</p>	<p>事後学習</p> <p>実習での具体的な成果を共有する</p> <p>実習で残された課題、今後の取り組みを必要とする(期待する)課題を確認する</p>	<p>実習日誌や実習生自身の体験等を通じた指導</p> <p>実習総括レポート等の提出を通じた指導</p> <p>実習内容における達成状況への評価を共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実習日誌や実習生自身の体験等を通じた指導 実習総括レポート等の提出を通じた指導 実習内容における達成状況への評価を共有 実習生自身の認識する自己課題を確認(実習報告書等の確認や実習報告会への出席を含む) 	